

序

昭和27年11月17日、朝日新聞の東京都下版のトップに、四段抜きで八段にわたり、私の研究について紹介がありました。

児童の言語生活を豊富に

「漢字教育」が必要

八王子教委石井主事近く研究成果発表

という見出しで、『八王子市教育委員会の石井勲指導主事は過去二年間の研究結果から、現在の小学生は漢字の学習を非常に制限されているため、読書力や理解力が弱く、言語生活が極めて貧弱になっている。(略)伸びようとする児童の読書力、理解力を故意に抑えてするようなもので、これをなくすためにはどうしても低学年のうちから漢字に親しませる必要かある。漢字の多くは事物を具象的に表現しているのだから、抽象的なかなよりもかえって児童に親しみやすい利点があり、指導の方法さえ適切であれば、881字の教育漢字を三年生までに読ませることは決して困難ではない……』と紹介してくれました。

私はこの年、全日本国語教育協議会で、これについて発表しました。しかし、この発表も、この朝日新聞の折角の紹介も、何の反響も呼ばないで終わりました。

新宿区立淀橋第一小学校長山下行人氏の並々ならぬ好意により、私の小学生指導が始まったのは、この翌年の四月一日です。以来、研究の結果を、全国漢学漢文教育研究会、全国大学漢文教育

研究会、全日本国語教育協議会に発表して来ましたが、大した反響はなく、共鳴はしても実行してみようという人はまったくありませんでした。

ところが、本年三月、朝日新聞が、学芸欄で「漢字とカナ」問題を取り上げ、大岡昇平氏が三日にわたり、私のことを紹介するやにわかには私の研究に注目してくれるようになったことは大変嬉しいことでした。以来、今までに、私の所に、問い合わせの手紙、授業を見に来られる人、著作を贈って下さる人が連日のようになりました。新聞・雑誌・書物の原稿もずいぶん多く依頼を受けるようになりました。このように私の研究が世に注目を浴びるようになったことは嬉しいことであるとは言え、実行者が多く出ないことには、心から喜ぶわけには参りません。その意味で、三月、私の記事が朝日新聞に掲載されるや、いち早く本書の刊行を申し出てくれた黎明書房の力富阡蔵氏の厚意はほんとに有難いものだと思います。本書によって、全国のあちこちにきっと同志、協力者が出て、私に手をさし伸べて下さることと信じます。

書名の「私の漢字教室」は、福田恆存氏の「私の国語教室」にあやかって命名したものです。昨年より、福田氏のお奨めがあって、ぼつぼつとまとめていきましたので、本書に、名前を頂き、「私の国語教室」に劣らず、広く皆さんに読んで頂きたいという気持ちをこめました。

昭和36年6月14日

石井 勲